

〈会 議 報 告〉

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 平成 27 年度 第 2 回日高地区障がい者雇用支援地域合同会議 |
| 開催日・参加者 | 平成 27 年 11 月 27 日(金) 13:30～16:30 参加者 32 名 (事務局含む) |
| 会 場 | 新冠町レコード館 研修室 |
| <p>〈会議内容〉</p> <p>開会挨拶 胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて～じセンター長 鹿野内賢士 門別地区障がい者職親会 会長 清宮吉博 氏</p> <p>議題 1) 管内における就労状況について 浦河公共職業安定所 上席職業指導官 筒井裕司 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えりも町～新冠町までとエリアが広域である。現在の障がい者求人状況は、牧場の清掃員、事務補助員、町の施設の受付、パチンコ店、ゴミ収集など昨年度よりも増えており、今後も増加していく見込み。背景には、障がい者雇用納付金制度の引き下げが関連していると思っている。 ・合理的配慮について～リーフレット参照 ●ハローワークとしての合理的配慮に対する周知はどのように行っていくのか? →求人受付時や企業訪問などの機会でも周知を進めていく予定。 <p>議題 2) 差別解消法・合理的配慮について 日高圏域相談支援センターこみっと 地域づくりコーディネーター 中土井 浩 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「虐待＝アブユーズ →相手が自分に反抗できない状態で過剰に行く」と「差別＝自分からも相手に攻撃できる」の違い。今までの考え方を一回壊してリフレーミングする。 ●高等養護学校出身者を採用している。受け入れるにあたって、事前に本人の特性や作業状況・得意なことなどを提供してもらえると、環境を整えるなどの準備ができる。もっと企業側の苦労を理解してもらわなければ障がい者雇用に繋がっていかない。 ●各地区でも企業と福祉の連携ができていないと話題になっている。伊達市では地域自立支援協議会で就労支援部会(働く人を支える会)が立ち上がり、事業所間の連携が取れるようになった。求人情報の共有も含めて、企業にも入ってもらっている。また、札幌では A 型事業所が増加しており、利用者が事業所間をくるくるまわっていると聞いている。本人の能力をどう生かしていくかが大きな課題である。 ●新ひだか町ではトマト栽培が盛んだが、収穫する人が 15%足りない。就労支援事業所とハウス一棟を契約して利用者のペースで作業してもらい、その部分を行政が作業訓練という形でサポートしてくれると、地域の産業にも貢献できると思うのだが。 →施設外就労という形態になる。利用者にとっても働く意識が高まるので、よい取組みになると思う。 ●ミニトマト栽培は 10 月くらいで終わるため、地域から冬場の仕事の確保が課題である。職親会としてできることを考えていきたい。 ●移行支援事業所から受け入れた方がいる。現在はとても戦力になってきている。しかし、施設で教えることと企業で教えることが違うと感じる。施設で教わったことを大事にしながら、企業人としての知識を教えている。職親会としても、学校・行政・施設・事業主との深い連携が必要だと感じている。 <p>議題 3) すて～じの支援体制・情報提供について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.直 B の取組み状況～別紙資料参照 <ul style="list-style-type: none"> ・現状ではダイレクト B 有きになっており、本人や家族の認識が追い付いていない。来年度に向けて色々なことを検証していく必要がある。 2.支援状況報告～別紙資料参照 <ul style="list-style-type: none"> ・ナカボツセンターでは、支援エリアが広いため定着支援の弱さが課題になっており、関係機関との連携が重要である。 ・現場の理解を深めるため、勉強会の開催や事業所に対して求人や助成金活用などの情報提供を行っている。 | |

・数字として目に見える成果をあげることも大事だが、今後は「質」にも力を入れていかななくてはならない。

3.その他

〈情報提供〉

・福祉的就労から企業就労に向けるために

福祉・企業・行政の連携→業務の細分化や中間的就労の取組みが必要である。

・伊達市における生活困窮に伴う就労支援について

すて～じも相談役として関わっている。伊達市では困窮者が企業で職場体験を行う際、市が企業に対して、A型事業所の日勤単価分を負担して受け入れてもらうことも検討している。

●施設から就労体験として企業で受け入れているが、雇用に向けているのに施設の都合で勝手に引き上げてしまうことがある。そういったことも障がい者の実習や雇用が定着しない理由の一つだと思っている。

→利用者中心で考え、何とか定着できるよう努力していきたい。

●障がい者雇用をしているが、1年後には雇用したいと考えているが保護者の理解が得られず先に進めない。企業は人を育てるのに時間とお金がかかっている。支援する側も状況を判断して、利用者が働ける環境を整えていくことが大事だと感じる。

→就労と生活は一体型なので、色々な整備が必要だと思う。働きたいという利用者の気持ちを大切にしなければならないが、家族間ではお金が絡むと切り離しが困難になる場合も多い。

議題4) その他

・すて～じの今年度予定について

*11月に予定していた雇用促進セミナーは年明け2月くらいの開催になる見込み。

閉 会